

木村明日香「原子力発電所立地における電力会社の短絡的視点がもたらした惨状と私たちのあるべき姿—浜岡原子力発電所停止要請を受けて—」

1. 東日本大震災の発生、そしてそれが引き起こした予想外の事故

2011年3月11日14時46分、非常に大きな揺れが日本を襲った。地震大国と呼ばれる我が国でもこれまで経験したことのないほどの揺れである。マグニチュード9という日本観測史上最大規模のその地震は、人々の予想を凌駕する甚大な被害をもたらした。

今回の地震で特に甚大な被害をもたらしたのは、沿岸部で発生した津波であった。この地震による死者数は15,413人、行方不明者数は8069人¹となっており、この大半が津波による被害者数であるといっても過言ではない。しかしながら、津波が引き起こした被害はそれだけではなかった。福島県にある東京電力福島第一原子力発電所では、原発周辺を襲ってきた津波が電源装置を停止させ、その後原子炉建屋が爆発する。これにより県を跨ぐほどの広範囲に放射性物質を含んだ水蒸気が飛散し、人々をパニックに陥らせた。それにも関わらず、地震から2か月ほど経った5月、東京電力が地震当日に実はメルトダウンが起きていたことを発表する。かつては「安全神話」までもが語られていた原発であったが、さすがに人々の不安や焦燥はピークに達していた。

2. 原発に対する新たな恐怖

このような状況が続き原発自体のあり方が疑問視される中で、特に不安視する声が高まったのが静岡県御前崎市にある中部電力浜岡原子力発電所であった。震源地である宮城県沖から約600キロメートルも離れたところに位置する浜岡原発だが、なぜ今人々の関心を引き付けたのだろうか。実は、それは近い将来起こると想定されている東海地震に起因するものであった。浜岡原発が立地する御前崎市は活断層だらけと言われている地域であり、長年東海地震の震央として想定されてきた。現段階の予想ではマグニチュード8規模の地震が約87パーセントの確率で発生するとされており、御前崎市の予想震度は7。また、浜岡原発の目の前には遠州灘という海が広がっているが、予想される津波の高さは5~10メートルもしくはそれ以上。そして驚くことに、震度6弱以上が想定される地域は静岡県ほぼ全域、愛知県、神奈川県、山梨県、長野県の一部であり、被害地域全体で予想される被害は、建物約26万棟、死傷者約9,200人とされている²。では、これほど危険と騒がれている地域になぜ原発を立ててしまったのだろうか。

確かに東海地震が起きることは30年以上も前から言われている。しかし、浜岡原発着工当初はまだそのような予想はされていなかったのである³。だが着工後徐々に東海地震の発生が表立って言われるようになり、浜岡原発でも対応が急がれた。実際に、過去に起きた

地震の規模などを調べたうえで耐震強度の強化を行い、また、津波に対しては8.3メートルのものが襲ってくることを想定しながら対応してきた⁴。しかしながら、最も危険とされている津波に関して言えば、今回起きた東日本大震災では最大で38.9メートル、ビルに置き換えれば約13階相当もの高さの津波が観測されていたり⁵（岩手県宮古市 震度6観測地点）、また、福島第一原発でも14メートルもの津波がやって来て7メートルの防波堤を悠々と超えてしまうなど人々の予想をはるかに上回る被害が観測された⁶。これらの点を考慮すれば東海地震でも予想を大きく上回る被害が発生する可能性は否定出来ず、また、それにより浜岡原発に対する不安感が人々の中に湧き上がってくるのも当然であろう。

3. 政府の対応と地元周辺の反応

このような動きを受けて、震災発生から2ヵ月が経とうとしていた2011年5月6日、菅首相は浜岡原発に対して停止要請を行った。具体的には、想定される東海地震に十分耐えられるようにするためには、防潮堤の設置など、中長期的な対策を確実に実施することが必要であり、こうした中長期対策が完成するまでの間、現在、定期検査中で停止中の3号機のみならず、運転中のものも含めて、すべての原子炉の運転を停止するというものであった⁷。

しかしながら、当然のことだがこれには様々な反応が見られ、特に自治体ごとの反応には顕著にその違いが表れていた。静岡県知事に至っては「これは大英断。高い敬意を表したい」⁸と述べ、また、御前崎市周辺の掛川、牧之原、菊川の3市長も「現時点での首相の判断は妥当である」と語り、周辺自治体は賛成色の濃い反応を示した。それに対し、原発を有する御前崎市は「（全面停止の要請は）地元で納得のいく説明があつてからすべき。こんな唐突な発表は納得できない」と述べ、不本意な態度をあらわにした⁹。

御前崎市内の反応も年齢層によってその傾向に違いが見られた。若者内では「身の安全も大切だし、けれど、原発がないと暮らしていけないのも事実だし…」 「身の安全が第一だから停止には賛成である」など、その問いの困難さに戸惑いを見せるか、もしくははっきりと賛成の立場に立つような傾向が見られた。それに対し、長年御前崎に住んでいる中高年層からは、「雇用問題や、住民の生活についてもっと考えてほしい」「仕事がなくなるから原発停止には反対である」など、反対や疑問を持つ声が多く聞かれた。中高年層＝「その土地で発生した金銭的財が長年、且つ、直接的に自分の生計に影響をもたらしており、また、現在進行形でそのような生活をしている人々」であることを考慮すると、彼らの発言は、御前崎市が長年原発に依存しており、今となってはそれがないと生活することができない状態になってしまった、という事実を顕著に表している。原発とは、それほどまでに人々の生活基盤を吸収してしまうものなのであろうか。

4. 原発停止による損害

結局のところ浜岡原発は停止することになったわけだが、早速それによる弊害が表面化してきた。御前崎市が発表した平成 23 年度 6 月補正予算案によると、当初予算額が 219 億 1300 万円であったのに対し、補正後の額は 213 億 1437 万 4000 円となっている。ここから発生する補正額は 5 億 9862 万 6000 円であり、結果として御前崎市の 6 月度の予算は当初の予定と比べてほぼ 6 億円の減額となっていることが分かる¹⁰。予算の 42.4%が原発関連の交付金で成り立っている御前崎市にとって¹¹、浜岡原発の停止による打撃はかなりのものであったことが窺える。

この点から、御前崎市が浜岡原発に依存しながら成り立ってきたことが見えてきたわけだが、ここからはその設立の経緯について具体的に考察し、なぜそこまで依存することになってしまったのか、そして御前崎市は今後どうなっていくのかについて考えて行きたい。

5. 浜岡原子力発電所の設立

浜岡原発建設の申し入れが静岡県御前崎市（旧浜岡町）に行われたのは昭和 42 年（1967 年）5 月のことであった。当時はまだ東海地震についての予想は為されていない頃だったが、この地域が東海地震の震源域のど真ん中にあるということは住民内でも噂になっていた。したがって、原発受け入れに対して、当初は町自治体も非常に慎重な姿勢を見せていた。だが結局自治体は受け入れを概ね決定し、そして住民に対する説明会や懇談会を開催する。そして、最終的には住民もゴーサインをだし、原発設立へと向かっていく¹²。だが、これまでも大きな地震を経験しており、今後やって来る東海地震の危険性も分かっていたであろう自治体や住民たちが、そんなに簡単に原発誘致を認めるものだろうか。いったい何が住民たちを動かしたのだろうか。

6. 人々を動かした「嘘とカネ」

簡単に言ってしまうと、住民たちを動かしたのは「嘘とカネ」である。当時は確かに原発に対する安全神話が積極的に言われていた頃ではあるが、それにしてもあまりに不適當で、且つ真実とかけ離れたことを中部電力（以下「中電」とする）関係者は述べていたのである。

住民に向けて行われた説明会の際に、中電によって学者を名乗る人物（名前などは公表されていない）が招かれたのだが、その際、彼らは「これからは月へも人類が行ける時代になる。科学の進歩は日進月歩であるから、今は危険だと恐れられている放射能も、スプレーをかけただけで中和され無害になる薬品が必ず開発されます。だから、もし不幸に被曝することがあっても、すぐに治りますよ。」「放射能もガンも、あと 10 年もすればみんな解決するでしょう。だから、原子力発電所がこの町に建設されるといっても、何も心配

はいりませんよ。」などと述べたのである¹³。東日本大震災発生後、連日のように放射能汚染による被害などを耳にしてきた私たちがもしこのような説明をされたら、私たちは一人残らずと言っていいほど憤慨するのではないか。しかしながら、当時の浜岡町民はこの話を信じ、徐々に原発賛成派が増えていくのである。

このような嘘を用いてなんとか原発建設にたどり着いた中電であったが、実はそこにはもう一つ大きな要素があった。それが「嘘とカネ」の「カネ」である。しかしながら、ただ単に莫大な額のカネが動いていたのではない。実は当時の浜岡町には、それが流入しやすい土台がすでに出来ていたのである。

当時の浜岡町は発展のための資金や能力がかなり乏しい状態にあった。第二次世界大戦中に東京第一陸軍の射場であったことから元々人があまり住んでおらず、また、浜岡砂丘があることから分かるように砂地であるので農業にも適さず、そして目の前に広がる遠州灘は荒れるので漁港も作れずという、歴史的、地理的に発展が困難な地域であった。また当時過疎化も進んでいたことから、かなり厳しい状況下にあったと考えられる。

そんな中、中電側が申し出た莫大な投資は町自治体にとって非常に魅力的なものであった。以下に、中電が行ってきた投資をいくつか例として挙げる。1) 当時一反(300坪)あたり5万から10万だった土地を160万から180万で買収、2) 道路、公民館、図書館、多球場などの建設、3) 町内会のイベントに対する資金援助、当選した町議会議員に対する当選祝い金(一人当たり500万円)、町長に対する慰労金(町長が亡くなるまで毎月30万円を提供)、4) 漁民に対する巨額の漁業補償金、等である¹⁴。また、この他にも原発を誘致することによって国から多大な交付金が降りる。これについては先ほど示した御前崎市の今年度の6月度予算の減り具合を参考にしてほしい。このように、町を発展させるにあたって難題が蓄積していた旧浜岡町にとって浜岡原発の誘致はかなり魅力的なものであった。そして、人々は見ると見るうちに依存を高めていったのである。

7. 政府の対応評価

自分たちが今まさに欲していたものを、これでもかというくらいに与えてくれた原発。御前崎市では原発がすでにその地域の心臓部と化している、と言っても過言ではないであろう。だが、東海地震がいつ起きてもおかしくないこの状況において、このまま運転を続けることを世論が許すとも思えない。しかし、このような御前崎市の状況を考慮すると、今回の菅首相の要請はそれによって人々の生活を破壊しかねないという一面を兼ね備えた、熟考に熟考を重ねるべき非常に重いものだったのである。にも関わらず、会見を行った時点では具体的な政策が考えられていなかった。さらには、今回の地震によって甚大な被害が発生した東北地方を支援するための財源さえも未だに確保されていない。それらを考慮

すると、やはり今回の首相の決断は浅はかで唐突すぎたと言わざるを得ない。そしてそれに伴い、今後の政府の決断はさらに重さを増すであろうし、私たちも慎重に見守らなければならない。

8. 終わりに

今回の福島第一原子力発電所での事故や、浜岡原子力発電所への停止要請は、我が国の電力配給、そして消費の在り方に多くの問題を呈した出来事であった。そして、政府には今後、被災地復興、御前崎市民の生活保障など、とにかく財源の確保が重要となってくる問題がさらにのしかかってくる。今日の腐敗した政治体制の中で、政府が一体どのような形でこれらの問題と向き合っていくのか—増税なのか、行政予算の見直しなのか—それを専門家だけではなく、私たち一人一人が関心を持って見定めていく姿勢、それこそが今私たちに求められているものなのである。

-
- ¹ 東日本大震災の死者、1万5413人に | 日テレ NEWS24 (2011年6月11日)
<http://www.news24.jp/articles/2011/06/11/07184361.html>
 - ² 気象庁 | 東海地震とは
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/hantekai/q1/q1.html>
 - ³ 朝日新聞社「ニュースがわからん！なぜ原発だけ止めるんじゃ？」 (2011年5月10日)
 - ⁴ 中部電力 | 耐震設計の基本的な考え方 - 地震対策について
http://www.chuden.co.jp/energy/hamaoka/hama_jishin/taishin/index.html
 - ⁵ 宮古市の津波、国内最大の高さ38.9m | 日テレ NEWS24
<http://www.news24.jp/articles/2011/04/15/07181019.html>
 - ⁶ 福島第一原発で何が起きているのか——米スリーマイル島原発事故より状況は悪い：日経ウーマンオンライン【トレンド (ライブ)】
<http://wol.nikkeibp.co.jp/article/trend/20110317/110389/?P=3>
 - ⁷ 菅内閣総理大臣記者会見
<http://www.kantei.go.jp/jp/kan/statement/201105/06kaiken.html>
 - ⁸ You Tube - 【原発】原発停止要請に静岡県知事「大英断だ」 (11/05/07)
<http://www.youtube.com/watch?v=S0ohgvJA7I0>
 - ⁹ 浜岡原発停止要請 地元の反応割れる | ニュース | @S[アットエス] | 静岡新聞 SBS
<http://www.at-s.com/news/detail/100026182.html>
 - ¹⁰ 御前崎市総務部企画財政課 「平成23年度 6月補正予算案の概要について」 (2011年6月1日)
<http://www.city.omaezaki.shizuoka.jp/kikaku/zaisei/H2306hoseigaiyou.pdf>
 - ¹¹ 【浜岡原発停止】「浜岡停止要請」戸惑う御前崎市「再開困難」経済に打撃+ (2/2 ページ) - MSN 産経ニュース
<http://www.city.omaezaki.shizuoka.jp/kikaku/zaisei/H2306hoseigaiyou.pdf>
 - ¹² 浜岡原発、住民のエゴ (1) - JanJanBlog
<http://www.janjanblog.com/archives/29147>
 - ¹³ 同
 - ¹⁴ 同

※なお、日付が表記されていないものは、全て2011年6月参照のものである。